

分布：全国

## ナガミヒナゲシ (ケシ科)

学名: *Papaver dubium*

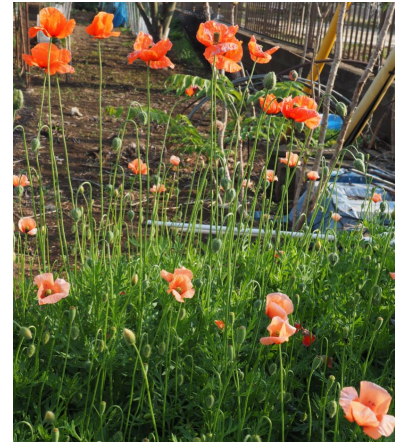
長実雑嚶粟 別名：ひなげし, ポピー, 虞美人草, コクリコ

### 主な生育場所

路傍, 荒地, 空き地, 河川敷, 畦畔, 畑地, 草地, 樹園地など, 日当たりがよく乾いた場所なら里地の至所に見られる。貧栄養の環境でも生育するが, 肥沃な土地ほど群生化しやすい。

### 特徴

越年草(一年草)。地中海原産の帰化植物。高さ20~60cmで全体有毛。根生葉は長さ20cmに達し, 茎につく葉も含め1~2回羽状に深く裂ける。朱赤色または淡紅色の4弁からなる径3~6cmの花を茎の先端に単生する。花後に円筒状の子房が2cmほどに伸び果実となる。熟すと上面の蓋がめくれ, 1,000以上の小さな種子がこぼれる。



名前の由来: 近縁で鑑賞用のヒナゲシ(ポピー)に良く似ているが, 花後に丸い果実となるヒナゲシに対し, 細長い円筒状の果実をつけることから長実ヒナゲシ。

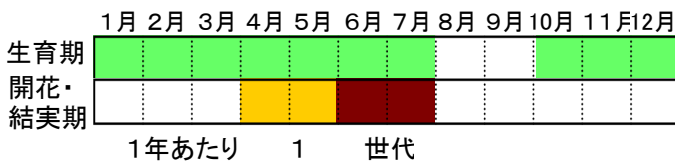
### <農業との関係>

種子を多数つけ, 繁殖力が旺盛なことから, 畦畔だけでなく, 畑内や樹園地にも侵入し, 害草化している。花がきれいなため, 花後を待って草刈りなど行ってもすでに結実種子がこぼれていることも多く, まん延を助長している面もある。また他の植物の生育を阻害するアレロパシー成分を含むことも報告されており, 麦畑などでは駆除が難しい難防除な雑草となる場合もある。



花弁中心部の子房が花後に円筒状の果実となる

### <生活史> 関東地方の例(目安)



<類似種> 園芸用のヒナゲシは良く似ているが果実の形が球形~長球形で円筒状にならない。栽培が禁止されている「ケシ」は全草が無毛。同様に栽培が禁止されるアツミゲシには剛毛が生えるが, 葉は深く切れ込むだけで, 果実は長球形となる。

### <一言うちく>

茎や葉を折ると乳白色あるいは黄色の乳液が出ますが, アルカロイドが含まれており素手で触るとかぶれることがあり, 除草する際には要注意です。このアルカロイドには麻酔作用があり古代ギリシャでは麻酔薬に使われたそうです。ただし, ケシのように阿片の成分は含まれていません。



有毛で羽状に細かく切れ込む葉 開花前のつぼみは下を向く

### <人との関わり合い>

日本には鑑賞用ではなく輸入穀物に混じって渡来したとされる。園芸種のヒナゲシに似ることから駆除せずに花を楽しむことも多く, 種子生産を助長している一面もある。また, 大量に生産される小さな種子は風による飛散だけでなく車のタイヤや靴裏などに付着して分散していることも考えられ, 人為によってまん延化を招いているといえよう。有毒なので食用にはならないが, ヨーロッパでは古くから, 睡眠導入, 鎮静, 止痛成分を含む薬草として利用してきた。

### <俳句や短歌への登場>

【季語:春】 ※ヒナゲシ全般

笱哉虞美人草の蕾哉 (正岡子規) 花芥子の雨に堪へつつゆがみたる (高浜 年尾)

ああ皐月 仏蘭西の野は 火の色す 君もコクリコ われも雑嚶粟 (与謝野 晶子)

ひなげしのちる日のほどを歌の選 (三好達治) ポピー野に咲けば加州の春といふ (山口 青邨)